

平成 21 年 9 月 30 日現在

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2007～2008

課題番号：19730272

研究課題名（和文）

産業集積の形成・発展とネットワーク —岡山ジーンズ産業集積の分析を中心に—

研究課題名（英文）

The relevance between the networks and the formation and growth of the industrial agglomeration; the case of Okayama jeans industrial agglomeration.

研究代表者

田中 英式 (TANAKA HIDENORI)

愛知大学・経営学部・准教授

研究者番号：00410548

研究成果の概要：

本研究は岡山ジーンズ産業集積を対象とし、集積内ネットワークのメカニズムを明らかにしたものである。岡山で生産されるジーンズは、日本国内で大きなシェアを占めるのみならず、海外ブランドからの注文も多いなど大きな競争優位性を有している。本研究では集積内企業でのインタビュー調査結果に基づく分析から、こうした優位性を生み出す集積内ネットワークのメカニズムを実証した上で、他産業への含意を提示した。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,400,000	0	1,400,000
2008年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
年度			
総計	1,900,000	150,000	2,050,000

研究分野：経営学

科研費の分科・細目：経営学

キーワード：産業集積 ジーンズ ネットワーク 商人 地域経済

1. 研究開始当初の背景

筆者はこれまで、主に台湾、中国を対象として、家電・自動車を中心とした日系製造企業と現地サプライヤーとの企業間関係、および技術移転について現地調査に基づく研究を行ってきた。これまでの調査・研究から導き出された問題意識は、従来の日本の製造業

の競争優位を支えてきたメーカーとサプライヤーの長期継続的な企業間関係のシステム、およびそれに基づく国内産業集積の海外移転が相当程度進行中であり、産業空洞化がかなり深刻な状況にあるという点である。まず自動車産業、および一部の家電産業では、

メーカーの海外進出に伴い、国内の有力なサプライヤーが日系サプライヤーとして現地に進出するケースが非常に多い。例えば、ある家電部品サプライヤーのように、日本国内に既に生産拠点は存在せず、すべてアジア諸国で生産し、現地の日系メーカーに製品を販売しているという極端なケースもある。他方で日系メーカーは、進出先の現地サプライヤーに対して、日本国内と同様の指導・育成を行い、長期継続的な企業間関係を構築している側面もある。

このようなグローバル化に伴う産業空洞化という現代的課題に対して、近年では、現在でも国内のある特定の地域に根ざしながら発展を続ける産業集積が大きな注目を集めている。自動車、家電等のいわゆる大企業がもはや日本国内だけでなく、グローバル企業として活動している以上、サプライヤーを含めた一連の産業集積は実質上、それぞれの進出先国へと移っており、国内では機能しなくなっている。従来のメーカー依存型のいわゆる「城下町型」産業集積から、いかに新たな産業集積へと転換していくかという問題は、アジア諸国との国際競争の中での国内製造業基盤の維持にとって緊急の課題である。その中で、新たな産業集積のケースとして、本研究が注目したのが岡山ジーンズ産業集積である。

2. 研究の目的

本研究が取り上げる岡山ジーンズ産業集積は、生産工程の海外移転が顕著な我が国の繊維・アパレル産業にあつて、国内の一地域に一連のバリューチェーンを残している重要なケースである。さらに同地区で生産されるジーンズは国内で大きなシェアを占めるのみならず、海外ブランドからの注文も多いなど大きな競争優位性を有している。岡山ジ

ーンズ産業集積では、なぜこうした優位性を発揮することができるのであろうか。その大きな要因として本研究が注目するのは、集積内ネットワークである。従来、産業集積の既存研究では、集積の優位性を生み出す要因の一つとして、集積内部のネットワークの重要性が指摘されてきた。しかしながら、従来の研究では集積内ネットワークの重要性が指摘されつつも、集積内ネットワークそれ自体を分析対象とした実証研究はほとんどない状況にある。したがって、集積内ネットワークの実態、および産業集積の優位性との関連については、必ずしも明らかにはなっていないのである。

以上の問題意識を踏まえた上で、本研究の目的は、集積内ネットワークが競争優位性を生み出すメカニズムを実証し、他産業へのインプリケーションを導き出すことにある。

3. 研究の方法

研究方法は集積内企業でのインタビュー調査に基づく実証分析である。岡山所在のジーンズ関連企業については、業界誌をはじめとする資料に一定の企業情報が掲載されている。本研究では、それらの情報を基に調査企業を選定し、児島地区を中心としたジーンズ自社ブランド企業 11 社、および専門企業 4 社、業界団体 2 団体でインタビュー調査を行った。調査は 2007 年 8 月の 1 次調査、2008 年 3 月の 2 次調査と 2 段階に分けて行った。まず 1 次調査では、自社ブランド企業 8 社を対象として、集積内ネットワークにおける自社の役割、および取引関係について質問した。また業界団体 2 団体でもネットワークにおける役割を質問した。次に 2 次調査では、1 次調査で得た情報をもとにさらに新たに 3 社の自社ブランド企業で同様のインタビューを行うとともに、1 次調査で明らかになった取

引先の専門企業のうち、代表的な4社の専門企業で、それぞれの専門企業の能力、および取引関係について質問した。本研究では、以上のインタビュー調査結果に基づき、集積内ネットワークのメカニズムの実証分析を行った。

4. 研究成果

本研究では、まず既存研究サーベイを通じて、集積内ネットワークのメカニズムに関する独自の分析フレームワークを作成した（雑誌論文①）。そして、この研究フレームワークに基づき、上記のインタビュー調査を行った上で、調査結果を分析した（雑誌論文②）。

研究成果として、以下の点が明らかとなった。まず集積内ネットワークの構造について、本研究では、自社ブランド企業11社の取引先データから、産業集積内部のネットワーク図を作成した。このネットワーク図から、岡山ジーンズ産業集積内ネットワークは、全体としては広範かつ複雑な取引関係のネットワークを形成しながらも、それは各自社ブランド企業を中心とした比較的強い関係を持つより有機的な複数の個別ネットワークから構成されていることを明らかにした。本研究では、前者を全体ネットワーク、後者を部分ネットワークと名付けた。

次に、ネットワークの機能について、同集積内ネットワークにおいては、部分ネットワークにおける自社ブランド企業と専門企業との密接な相互作用を通じて、高額ジーンズ市場という特定市場セグメントにおいて、市場ニーズにあった製品を柔軟に提供する一方で、全体ネットワークによって集積全体としての生産規模を確保していることを明らかにした。このように、本研究は、従来必ずしも明らかになっていなかった集積内ネットワークのメカニズムについて、構造と機能

の両面から、体系的、かつ詳細に分析した初めての試みである。

さらに他産業へのインプリケーションとして、本研究では集積内部のリンケージ企業の重要性を指摘した。岡山ジーンズ産業集積では、各自社ブランド企業が、都市部に直営店を持ち直売したり、営業所での営業活動や展示会を通じて都市部の大手セレクトショップから全国の小規模セレクトショップにまで製品を販売したりしている。さらに多くの企業が販売や展示会への出展等を通じて、海外市場にもリンクしている。これらの企業はこうした大都市圏の直営店や全国セレクトショップへの販売、海外展示会等で自ら情報収集、マーケティングを行った上で、市場動向に合わせた製品開発を行い、集積内部の専門企業の専門能力を活用することにより、高額ジーンズを生産しているのである。岡山ジーンズ産業集積の場合は、こうした集積内の地元の中堅自社ブランド企業を媒介として最終市場と産業集積とが直にリンクしている。本研究では、これらの企業を「商人的リンケージ企業」と呼び、こうした商人的リンケージ企業の内生的発展が、産業集積の優位性の存続の要因ではないかという仮説を導き出した。

最後に、本研究の意義について2点述べる。一つは政策上の意義である。現在の日本の産業集積にかかわる政策は、文部科学省の知的クラスター事業に代表されるように、ナノテクや環境、情報通信等、どちらかといえばいわゆるハイテク分野におけるイノベーションや新規事業の創出に重点が置かれている。しかしながら、特に本研究で示した繊維・アパレル産業のような伝統的成熟産業に属する集積の場合は、むしろ集積内部の商人的リンケージ企業を刺激することに重点を置くというのも一つの方策であろう。第二は研究

上の意義である。産業集積において商人的リ
ンケージ企業が重要な役割を果たすとすれ
ば、集積内部にそれらの企業が生成・発展し
うる条件は何かという点が問題となる。その
ためには歴史的な考察が必要になるだろう。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に
は下線)

[雑誌論文] (計 2 件)

- ① 田中英式 (2008) 「産業集積の分析枠組み
に関する一考察～集積内ネットワークの
メカニズム、およびダイナミズム～『愛知
大学経営論集』第 160 号 pp. 55-83
- ② 田中英式 (2010) 「産業集積内ネットワー
クのメカニズム—岡山ジーンズ産業集積
のケース—」『組織科学』第 44 巻第 1 号 掲
載予定 査読有

6. 研究組織

(1) 研究代表者

田中 英式 (TANAKA HIDENORI)
愛知大学・経営学部・准教授
研究者番号：00410548

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし